

南三陸 復興まちづくり通信

第73号（令和2年7月発行）



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成23年10月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。

緊急事態宣言 49日間で全面解除！ 移動自粛を段階的に緩和 町内小中校夏休み3分の1に

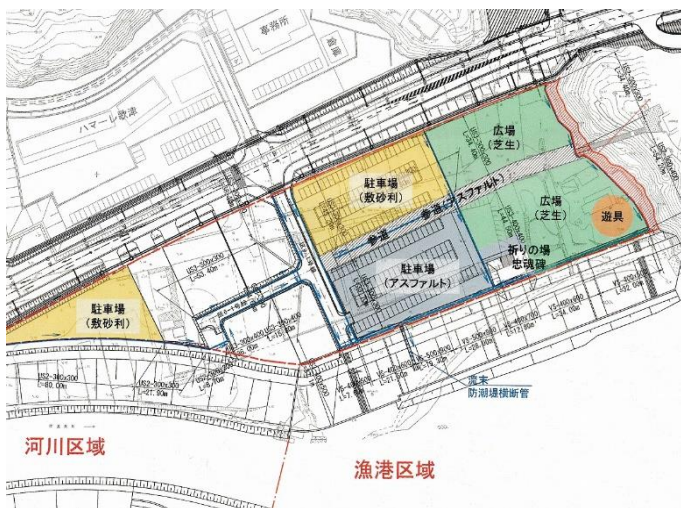
新型コロナウイルス特別措置法に基づく緊急事態宣言が5月25日、49日ぶりに解除されました。

6月19日には自粛を呼び掛けていた県をまたぐ国内移動が全面解禁。接待を伴う飲食店への休業要請も解除され、経済活動を本格的に再開する第1歩が踏み出されました。今後予想される第2波に備え、国民一人一人が油断せずに、3密の回避を心掛け、暮らしの場での感染拡大を防ぐ「新しい日常」を実践することが求められています。

南三陸町の小中学校では、今年の夏休み期間が短縮されます。新型コロナウイルスの感染拡大を受けた臨時休校で不足する授業日数を、長期休暇を短縮して確保するためです。夏休みは8月8日から18日までの11日間。プールの授業と小学生水泳大会も中止となります。部活動は当面の間、校内のみの活動に制限し、感染防止対策を徹底した上で行い、対外試合などは行われません。冬休みも4日間短縮し、12月26日から来年1月5日までです。

神割崎キャンプ場再開 アウトドア派に人気

神割崎キャンプ場が6月1日から営業を再開しました。6月18日までは第一段階ということで県内の利用客のみの限定で、それ以降は県外の利用者も受け付けています。予約人数を半分程度に抑えていますが、6月の土日の予約はほぼ埋まるなどアウトドア派に人気が高まっています。コロナの感染状況を見ながら8月からは通常の営業に戻していく予定です。リアス式海岸の景勝地「神割崎」での雄大な自然を満喫しながらのキャンプ（＝写真）は3密とは無縁です。



ハマーレ商店街前に芝生の憩いの広場を整備！

南三陸町は、東日本大震災で被災した歌津伊里前地区に芝生広場と駐車場を整備します。場所はハマーレ商店街と県漁協歌津支所の向かい側で、面積は1.1ヘクタール。5月27日に歌津総合支所で説明会が行われ、町が整備レイアウト案（＝左の図）を示し、住民と意見交換をしました。夏頃まで話し合いを重ね整備計画を決定。今年度中に敷地の盛土工事を行い、国道45号が完成後、令和3年度末までに広場の仕上げ工事を完了させる予定です。

教訓を後世に伝えよう！千り地震津波資料展

1960年5月の千り地震津波から60年。甚大な被害をもたらした災害の記憶を伝えようと、当時の写真や新聞記事、児童の手記などを集めた資料展（＝写真）が5月16日から31日まで、南三陸町生涯学習センターで開催されました。5月23日に南米千りで発生した津波が約1日かけて日本の太平洋沿岸に到達。旧志津川町では312戸が流失し、41人が犠牲になりました。（資料提供＝南三陸町図書館）



コロナに負けないぞ！ 3密回避であおぞら会議

コロナウイルス感染症対策で、3密を避け野外で会議をする人たちもいます。町民有志のまちづくり団体「かもめの虹色会議」のメンバー9人が5月30日、上山八幡宮の境内で初めての青空ミーティングを開催。テーマは震災復興祈念公園。コロナ後の新しい生活様式を見据えながら、町民ができること、続けていけることは何か？について意見交換。爽やかな風の吹き抜ける木陰での会議でした。

復興みなさんが社員総会

一般社団法人復興みなさんの定時社員総会が6月21日、入谷の「まなびの里いりやど」で開催されました。総会には、社員7名のうち6名が出席。2019年度の活動報告と決算が承認され、2020年度の活動計画と予算を決定しました。総会後の理事会で代表の選出が行われ、後藤一磨氏の留任が決定しました。

今年度新たに以下の助成金をいただき、コミュニティ再生のための活動を継続します。

- ・中日新聞社会事業団「東日本復興支援金」
- ・宮城県共同募金会みやぎチャレンジプロジェクト助成金
- ・みやぎ地域復興支援助成金（宮城県地域復興支援課）
- ・おらほのまちづくり支援事業補助金（南三陸町企画課）

具体的な活動としては、

- ① 椿はな咲くまちづくりお茶会、椿をテーマとした活動、
 - ② 新しい市街地におけるコミュニティづくり、
 - ③ 復興まちづくり通信の発行
- の3点をメインに、震災復興祈念公園の運営に町民が関わることのできる仕組みや機会づくり、植樹やクリーンアップキャンペーンなどの取り組みを行う計画です。

も懸念されます。茶会などの交流の場がなくなり、高齢者の孤立化も懸念されます。

幼い頃から馴染んだ暮らしぶりや見慣れた風景から突然切り離されて、自分の居場所ではないと感じることさえあります。

コロナで住民同士の親睦の機会も激減しています。コミュニケーションでのお茶会などの交流の場がなくなり、高齢者の孤立化も懸念されます。

思えば震災後の年月はストレスとの戦いの日々でした。かけがえのない人との突然の別れ。家や仕事を失った衝撃。過酷な避難所生活とそれに続く仮設住宅での不自由な暮らし。一つの場所での暮らしに慣れたと思った頃にまた別の場所での新しい生活が始まるという常に不安定な暮らしを余儀なくされました。

自宅を再建した後も、幼い頃から馴染んだ暮らしぶりや見慣れた風景から突然切り離されて、自分の居場所ではないと感じることさえあります。

【あとかき】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で家にも多りつきりという人も多く、大勢の人が先の見えない自粛生活にストレスを抱えています。

当会は、中日新聞社会事業団東日本復興支援金、宮城県共同募金会みやぎチャレンジプロジェクト、仙台銀行まちづくり基金、みやぎ地域復興支援助成金、おらほのまちづくり支援事業のご支援をいただき活動しています。